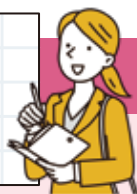


議員の視察とは？

自治体が抱える問題解決のヒントを得るため、先進的な取組を行っている自治体や施設、企業などを訪問し、研修や意見交換を行います。得られた知識や情報は、市に持ち帰り市政の発展と向上につなげています。



国立大学法人 琉球大学 『DX推進に向けたデジタル人材育成事業について』

琉球大学では、文部科学省の補助金を活用して「RICCA DX」という動画配信システムを公開し、誰でもDXについて学べる仕組みを作っている。市民の暮らしやすさに直結するDXを推進するため、市役所内の各部局の業務フローを洗い出す必要性を学んだ。



道の駅「かでな」にて



琉球大学にて



南城市議会議場にて

札幌駅前通まちづくり株式会社 『官民連携によるまちづくりについて』

札幌駅前通まちづくり株式会社では、札幌駅前通地区のエリアマネジメントや地下空間を活用したまちづくりに取り組んでいる。株式会社であるが、収益は株主に配当せず、まちづくり活動に還元し、新たな活動へと発展させている。鯖江市でも鯖江まちなか交流・にぎわい協議会が立ち上げられ、今後様々な取組が進められると思うが、広告やイベントを活用したまちづくりによって、まちなかの交流やにぎわいの創出につなげてほしい。

北海道江別市 『江別市都市と農村の交流センター「えみくる」について』

「えみくる」は、農村地域と都市部の間に位置しており、農家と都市部の市民との交流や農村地域のPRを目的に設立された。えみくるには、調理実習室やテストキッチンをはじめ、研修室、体育館や野球場などを備え、毎年多くの方に利用されている。また、食育事業を通じて交流人口の拡大に寄与している。地産地消や6次産業化の推進など、規模は違うが、鯖江市でも取り組む必要がある。

東京都武蔵野市 『武蔵野プレイスについて』

図書館・生涯学習支援・市民活動支援・青少年活動支援の4つの機能を併せ持つ複合施設として、2011年に開館。多世代が自然に交わる心地よい空間で、特に地下の青少年フロアは自由に安心して過ごせる第3の居場所として機能している。鯖江市の複合化計画にもデザイン・運営・世代間交流のバランスを兼ね備えた先進事例として大いに参考になる施設である。



府中市子育て世代包括支援センター「みらい」にて



株式会社LITALICOにて



武蔵野プレイスにて



iOFT国際メガネ展にて

委員会で先進地を視察しました

沖縄県嘉手納町 『道の駅「かでな」を活用した交流人口増大、地域振興拡充などの取組について』

嘉手納町は町内の82%が広大な米軍基地。道の駅「かでな」は米軍嘉手納基地に隣接する全国唯一の道の駅。観光の拠点であるとともに展望台から基地を望みながらその役割などを学ぶ「平和学習拠点」ともなっており、施設を観光・平和学習・人口増加など地域振興・経済活性化の拠点として多面的に活用。全国から多くの人々が訪れている。鯖江市でもこうした考え方や取組が今後重要と再認識した。

沖縄県南城市 『業務効率化ツールの活用による文書作成や情報整理支援について』

市民が使いやすいLINE公式アカウントの取組が印象的であった。鯖江市のような情報発信だけでなく、健診や講座の予約、バスのデジタル乗車券や各地区に絞った配信までもがLINEの中で簡単にできる仕組みになっており、市民にとって便利になるだけでなく、職員にとっても窓口対応や書類処理の負担が大きく減り、業務の効率化につながっている。こうした「市民にも職員にもやさしいDX」を、鯖江市でも推進していけたらと思う。

北海道札幌市 『円山動物園の施設整備と運営管理体制について』

エサの与え方や展示施設の住環境について、動物に対するストレスが緩和されるような飼育環境を作っている。西山動物園も開園40周年を迎え、今後改修の話が出てくると考えられるが、展示されている動物にとって住みよい環境を考慮した施設を作ることが大事である。また、札幌市動物園条例を参考に、西山動物園版の条例制定も考察が必要である。



札幌駅前通まちづくり株式会社にて



「えみくる」の研修室にて



札幌市円山動物園にて

東京都府中市 『府中市ヤングケアラープロジェクトについて』

日本財団のモデル事業として一般社団法人とタッグを組み、ヤングケアラーの課題に対して全国でも先進的な支援体制を整えている。丁寧な実態調査を行い、支援の流れをまとめたヤングケアラーサポートブックを作成。研修や啓発イベントの定期開催や、SNSなど様々な方法での相談支援を行っている。鯖江市でもヤングケアラー問題について、早期の取組が必要である。

株式会社LITALICO 『LITALICOジュニアについて』

障がいのある人や発達に特性のある子どもが自分らしく働き・学び・暮らせる社会の実現を目指し、関東圏を中心に全国で支援事業を展開している。支援が必要な子どもや若者を理解するだけでなく、保護者や教育・福祉関係者がどのように関わるべきかを明確にできる仕組みがすばらしく、鯖江市での支援の在り方を考える上で参考になった。

iOFT国際メガネ展 『障がい者および子ども用メガネについて』 『介護現場での安全性・快適性を第一に考えたフレームについて』

福祉分野の眼鏡製品を視察。成長や体勢に合わせた調整ができ、安全性・快適性を重視した工夫があり、利用者のQOL向上も期待できる。子どもの弱視の早期発見の大切さについても説明を受けた。福祉分野での眼鏡やその取組の重要性を再認識した。